

●●● Model Course ⑬ ●●●

ながれだに いわわきじ あまみふどう 流れから岩湧寺・天見不動

【葛城第十五経塚(岩湧山)】
【葛城第十六経塚(流谷金剛童子)】
【葛城第十七経塚(天見不動)】

里にある経塚から山上の経塚へ 岩湧山周辺の3つの経塚をめぐる

和泉山脈の名峰、岩湧山は、スキの広がる高原状の山頂で知られる。しかし、その名は読んで字のごとく、岩が湧き出るように峻険であることが由来で、女性的な現代のイメージとは裏腹に、修験の地として栄えた岩湧寺周辺の様子を表している。

天見駅から西へ、国道を出合ノ辻で横切り、流谷の集落へと入っていく。川向かいに古社の流谷八幡神社があるが、神事に使われた南北朝時代の湯釜が伝わっている。下山に使う砥石谷を左に見て、緩やかに登っていくと、葛城第十六経塚流谷金剛童子の道標があるので、川を横断し、畑の際を通って竹藪の中の経塚を訪れる。

ここから行司河原分岐までは、竹ノタワと呼ばれる峠を越え、カタツムリトンネルを抜ける長い道路歩きだ。行司河原分岐からは南に進路をとり、岩湧寺のある「岩湧の森」を目指す。いくつか駐車場を見送り、第2駐車場を過ぎると岩湧登山古道の入口があるので、入っていく。長寿水、行者の滝を見て岩湧寺に出る。第十五経塚は寺の先の道路をたどってゆく。坂を上ったカーブで右手に案内表示があるので入っていくと小ピークの先に経塚がある。

少し戻ってハイキングコースの「いわわきの道」へ。ひと登りすると左に張り出した尾根の先に、行者堂と、東の経塚ともいわれる五輪塔がある。いわわきの道は展望所を経て五ツ辻の手前でダイヤモンドトレイルと合流するので、紀見峠の表示を目指して進む。しばらく平坦路だが、下りになると三合目に着きの先で急坂となる。平坦になったところで砥石谷の分岐があるが、ここは見送り進むと、第十七経塚の天見不動がある。天見不動を拝したら、分岐まで戻り砥石谷への道をたどる。行きに歩いた道路に出たら、天見駅へ。

歩行距離 ◆約16km
歩行時間 ◆5時間10分

体力レベル ★★★
登山レベル ★★☆

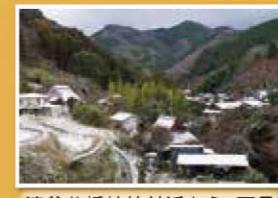


※歩行距離は水平距離、コースタイムは一般的なペースで歩いた場合の休憩時間を含まない参考タイムです。



※実際の修行の道とは異なります。

コース情報



流谷八幡神社付近から、天見富士の旗尾岳を見上げる



ダイヤモンドトレイルの五ツ辻。ベンチがある



岩湧の森の古道を行くと長寿水と縁結び地蔵がある



岩湧寺の臥龍洞。行者堂はこの岩壁の上に位置する

アクセス

往復

南海高野線天見駅

アドバイス

本コースでは3つの経塚をめぐるが、天見不動以外はわかりにくいうところにある。特に第十六経塚は竹藪の中の獣除け柵をまたぎ、朽ちた木のハシゴをのぼっていく。岩湧寺からは登山になるので、トレッキングシューズで臨もう。余力があれば、ダイヤモンドトレイルをそのまま紀見峠までたどっても面白い。